

2012年2月10日

企業会計基準委員会と米国財務会計基準審議会の代表者による定期会合の開催

企業会計基準委員会
米国財務会計基準審議会

企業会計基準委員会(ASBJ)と米国財務会計基準審議会(FASB)の代表者は、2012年2月6日と2月7日に、ノーウォーク(米国)で会合を開催いたしました。この会合は、ASBJとFASBが年に2回、定期的に行っているもので、今回で第12回目となりました。

ASBJは、日本基準と国際財務報告基準(IFRS)とのコンバージェンスを、FASBと国際会計基準審議会(IASB)が共同で取り組んでいるプロジェクトの内容を踏まえて行っており、高品質なグローバル会計基準の開発を目指すFASBとIASBの取組みを支持しております。

本会議において、両者は、高品質なグローバル会計基準の開発に貢献するという観点から、お互いの活動の最新状況を確認し、議論しました。その中で、ASBJから、IASBが現在取り組んでいる「アジェンダ協議2011」に対してASBJが提出したコメントについても説明しました。

さらに、両者は以下のプロジェクトの状況について意見交換を行いました。

- 金融資産の減損
- 金融商品の分類と測定、及び保険契約
- ヘッジ会計
- 収益認識
- リース
- 投資会社

両者は、このような継続的な議論により、IASBとともに改善を図るべき重要な項目に関する相互理解を深めることは、ASBJ及びFASBにおける今後の審議や、高品質な会計基準の開発に寄与するものと考えています。両者は、引き続き、直面する課題や今後想定される懸案事項について意見交換していくことといたしました。

西川郁生 ASBJ 委員長は次のように述べています。

「国際的な会計基準を取り巻く環境の変化が見られる中、日本の関係者の関心も高い金融商品、収益認識、リースについて、FASB の代表者と建設的な議論ができた。今回の会合における議論が、FASB と IASB との間で検討しているコンバージェンス・プロジェクトの最終化と高品質のグローバルな会計基準の開発に寄与するものと考えている。」

レスリー・サイドマン FASB 議長は次のように述べています。

「ASBJ との継続的な意見交換を通じて、高品質で、比較可能な会計基準を開発するという共通の目標に向けた作業において、米国と日本がともに直面している課題をより深く認識することができた。今回の議論は、非常に有益であり、この共通の目標の達成を促進することになると考えている。」

なお、次回の会合は 2012 年下半期に東京で開催する予定です。

企業会計基準委員会 (ASBJ) について

ASBJ は、2001 年 7 月に民間部門の機関として設立された。ASBJ が開発した会計基準は、金融庁により一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として認められることとなる。ASBJ は、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJ は、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、グローバルな会計基準の開発に貢献している。ASBJ に関する詳細な情報は、ホームページ <http://www.asb.or.jp/> をご参照いただきたい。

米国財務会計基準審議会 (FASB) について

FASB は、1973 年以来米国における財務会計及び財務報告基準を設定するための民間部門の機関として指定されている。それらの基準は、財務報告書の作成を規定し、証券取引委員会及び米国公認会計士協会により権威のあるものとして正式に認識されている。投資家、債権者、監査人及びその他の人々は、信頼性、透明性、比較可能性のある財務情報を必要とするため、このような基準は、経済の効率的機能にとって不可欠である。FASB に関する詳細な情報は、ホームページ <http://www.fasb.org/> をご参照いただきたい。